

平成 27 年度事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

インドネシアにおけるウミガメ保全事業を継続させ、事業の拡充を行った。現地 NGO である「インドネシアウミガメ研究センター」をカウンターパートとして、ジャワ海の 5 カ所の島において卵買上げや島借上げの手法を用いたタイマイとアオウミガメ卵の保全事業を展開した。西パプア州のジャムルスバメディ地区では、地域住民と協働でオサガメ保全事業を実施した。同じ西パプア州のウェルモン地区はジェンスワップ海岸と名称が変更となった。この海岸では、所有権について住民同士でもめていたために 4 年間にわたり外部の人間が立ち入ることができず、活動が計画通りに進捗しなかったが、地元住民及び地方政府との交渉の末、11 月に新規の監視体制を立ち上げることができた。

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行した。また、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校 5 年生の総合学習事業も継続した。プログラムの一部見直しを行い、内容の充実を図った。関東沿岸のウミガメ漂着（ストランディング）調査に関しては、行政や関係機関、各地団体や個人と協力して実施した。また、各教育機関での講演の他、各種イベントやシンポジウムへの出展や調査結果のサイト公表を行った。「第 3 回アクションミーティング」を開催し、一般の人に対して情報提供や啓発を行った。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計 2 組織で実施した。各種イベントに参加して活動報告紹介や広報活動を行ったほか、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:27,173 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】ジャワ海西部の 5 つの島（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、ブナンブン島）では、卵買上げや島借上げ手法を用いたウミガメ卵の実質的な保護の継続を行い、タイマイ 2,566 巣(331,270 卵、2015 年 1-12 月)、アオウミガメを 377 巣(34,684 卵、2015 年 1-12 月)保全することができた。昨年度、プスムット島ではネズミ駆除、キマル島ではトカゲ排除の成果が表れ、今年度ふ化率を上げることができた。昨年度に引き続き、各産卵地からタイマイの DNA 分析用サンプルの収集を開始し、保全活動を分子生物学の観点で評価を開始した（遺伝的多様性などを評価していく）。西パプア州のジャムルスバメディ地区では、昨年度海岸所有者と政府の間でもめ事があり、海岸の立ち入りができなかった。産卵巣の計数はワルマメディ海岸のみであった。ジェンスワップ海岸では、11 月から監視員の新体制を立ち上げ、2 月には 197 巣の産卵巣のふ化率を調査することができた。ジェンスワップ海岸では、4 年間の海岸立ち入りができなかったが、ここ数年のオサガメの産卵巣数は、1,000 巣前後で変動し横ばい傾向となった。アメリカの海洋漁業局やパプア大、WWF-Indonesia が行っている、卵の移植と標識放流がオサガメの産卵数を減少させている可能性があり、今年度より実質的なその証明を開始した。それに伴い、これまで行ってきた標識放流は、体形の計測とピンクスポットの撮

影のみとする ID 識別調査に移行した。また、ワウ村では、海岸に入っている NMFS、UNIPA、WWF-Indonesia の 3 団体による移植や標識放流、住民による海岸での狩猟が禁止された。これは、これまで調査訪問の度に住民と討論した、啓蒙活動の成果である。

- イオン環境財団助成事業（一部）
- 国際資源評価等推進補助事業（一部）

【日時】平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）
西パプア州（ジャムルスバメディ地区、ウェルモン地区）

【従事者人員】4 人

【対象】ジャワ海西部地域の住民（40～60 名）、西パプア州地区住民（1,000 人）

イ. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化率調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、産卵された卵を小笠原海洋センター内に移植し、ふ化後に一部をヘッドスターティング事業に供し、他のふ化稚ガメはすべて放流した。また、帰海できなくなった母ガメの保護も行った。産卵巣数は、父島列島で 1,424 巣、母島列島で 310 巣、聳島列島で 22 巣を確認し、昨年度の減少から再び増加回復した。小笠原村補助事業

【日時】平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】30 人

【対象】島民（約 2,700 人）、一般（不特定多数）

ウ. 関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した。合計 98 頭の死亡漂着個体および混獲個体の情報を収集し、そのうち 84 個体に対して剖検を行った。また、宮城県や石川県からも計 11 個体の漂着情報を収集した。これまで構築したネットワークをベースに各地団体や個人、行政と協力しながらネットワークの強化を図った。

【日時】平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】茨城県、千葉県、神奈川県、宮城県、石川県

【従事者人員】4 人

【対象】各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者など約 200 人

エ. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】小笠原諸島周辺海域に来遊するザトウクジラの社会構造を解明するため、過去に収集したデータの整理を行った。また、小笠原とフィリピンに来遊するザトウクジラの関連性を調査するためにフィリピンの関係団体と協議を進めた結果、共同研究を実施することで合意した。

【日時】平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島及び母島、聳島の各列島

【従事者人員】10 人

【対象】島民（約 2,700 人）

オ. サンゴ調査事業

【内容】 父島二見港におけるサンゴ群落に関する知見を得るため、産卵時期の確認とサンゴの生息状況について、島民及び研究者と情報交換を行った。

【日時】 平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 3 人

【対象】 島民（約 2,700 人）

② 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:2,741 千円】

7. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】 インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。

【日時】 平成 27 年 5 月、9 月、10 月、12 月、平成 28 年 1 月

【場所】 ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）、西パプア州（ジャムルスバメディ地区、ジェンスワップ海岸）

【従事者人員】 4 人

【対象】 ジャワ海西部の地域住民（30～50 名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20 人）

イ. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

【日時】 平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 9 人

【対象】 一般

③ 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:6,525 千円】

7. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】 小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行う。

● 小笠原村補助及び委託事業

【日時】 平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】 8 人

【対象】 島民及び来島者

イ. 教育啓発・エコツアー事業

【内容】 小笠原小学校の生徒に対して週 1 回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓蒙を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツアー基盤を構築した。

【日時】平成27年4月1日～平成28年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】8人

【対象】一般

ウ. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】さとえ学園小学校にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施したほか、ヨコハマおもしろ水族館にて子ガメ短期育成を実施した。

【日時】平成27年4月1日から平成28年3月31日

【場所】埼玉県、神奈川県

【従事者人員】9人

【対象】小学生1,000人、一般

エ. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。サイトの英語化に向けたプラットフォームの整備を行ったほか、小笠原事業所のサイトはリニューアルを実施した。

【日時】平成27年4月1日から平成28年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】8人

【対象】一般

オ. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメやクジラ、サンゴに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。また、各種の講演会や学会、検討会に出席・発表し、専門誌「海洋と生物」への寄稿を行った。

【日時】平成27年4月（国際ウミガメシンポジウム、さくらフェスタ）、7月（Ikoi Hula Festival、東急ハンズワークショップ）、8月（Alohaland）、10月（めぐりの日）、11月（カメDE Show、日本ウミガメ会議）、11月（ELNA主催アクションミーティング、Aloha Kalikimaka）、平成28年1月（東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ、京都大学講演セミナー）、2月（国際ウミガメシンポジウム）、3月（2015年度小笠原ウミガメ報告会、神奈川総合高校講演、国際資源評価事業混獲生物サブユニット推進検討会、東京都公園協会日比谷講演）、平成27年4月-平成28年2月まで隔月（「海洋と生物」寄稿）

【場所】東京都、神奈川県、静岡県、千葉県、京都府、トルコ（ダラマン）、ペルー（リマ）

【従事者人員】15人

【対象】一般、高校生、学会員

(2) その他の事業

① 物品販売

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館において、来館者に物品の販売を行った。エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトにおいてネット販売を行うほかイベントにおいても物品の販売を行った。インドネシアのウミガメ保全事業地住民が製作した民芸品などのフェアトレードを実施した。

【日時】平成27年4月1日から平成28年3月31日

【場所】東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）、神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、インドネシア

【従事者人員】20人

【対象】会員及び一般消費者